

2学年便い 7月


No.4 H24.7.4

先月、6月は芸術鑑賞や本校卒業生の教育実習生や進路講演会や期末考査など様々な行事がありました。特に期末考査の出来具合はどうでしたか。そろそろ結果が帰る頃だと思います。また、今月には通知表が配られます。頑張った科目、努力が必要な科目、皆それぞれだと思います。反省する所は反省し、2学期に向けて更なる飛躍を期待したいと思います。


また、それ以外の行事報告は下記に掲載したいと思います。
 今月、7月は行事予定にも書きましたが、野球応援・三者面談・夏季課外があります。三者面談では担任の先生とじっくり様々なことに対して相談して欲しいと思います。できれば質問事項などは事前に担任の先生に連絡しているとスムーズな面談ができると思います。宜しくお願いします。

来月8月は、夏季課外・模擬試験もあります。計画的な学習計画・実行が必要だと思います。大学のオープンキャンパスも開かれています。見学したい大学を決め、効率よい見学をすることをお勧めします。進路決定はまだまだ先のことではありません。もうそこまで来ています。

7月の行事予定

2日(月)	評議委員会 無遅刻・無欠席強化週間	
4日(水)	7日まで 野球応援練習(5・6時間目) B日課 防災訓練	
5日(木)	野球応援練習(3・4時間目)	6/30 PTA生活委員立哨指導
20日(土)	終業式	
23日(月)	三者面談・夏季課外	
	30日まで 31日まで	

8月の主な行事予定

3日(金)	学校見学会	
5日(日)	学校見学会	
13日(月)	校舎施錠	二松学舎大学の講演でメモをとる生徒
15日(水)	校舎施錠	
20日(木)	課外開始	
24日(金)	A・B進路マップ	

法政大学説明会報告 (ST・Sコース対象)



6月2日(土)に、1・2学年のST・Sコースの生徒を対象に、法政大学講演会が行われました。今回は法政大学から進学アドバイザーの沖田吉史先生にお越しいただき、「大学とは何か」、「学部とは何か」というテーマで話していただきました。まず大学とは、自ら学ぶという意思をもつ人が自分の興味関心に即して学ぶ場であるということ。そのため、自分の興味関心を突きつめて一番学びたいと思う学部学科を選ぶことが大切であり、そのほうが大学生活が充実すると熱弁されました。また法政大学の紹介として、現在は約3万人の学生が全国津々浦々から集まる総合大学で、少人数制の授業といった小さな単位での教育を実践中であるとのことでした。将来の進路の選択肢の1つとして、法政大学を視野に入れてみてはいかがでしょうか。

進学講演会報告 (1・2年 A・Bコース対象)



6月6日(火)に、1・2学年A・Bコースの生徒と3学年の希望者を対象に、二松学舎大学の特別講義が行われました。特別講義のテーマは「いま、『方丈記』を読む」。同大学国文学科から、磯水絵教授をお呼びして約1時間にわたる講義を頂きました。磯教授は鴨長明の『方丈記』を生徒と一緒に音読し、内容について説明し、方丈記における無常について触れました。世の流れも、人の良い部分も悪い部分も「常に同じものはこの世にない」、そして過去に起こった出来事を忘れずにいてほしい、というメッセージを生徒に送りました。

教育実習生報告



私は5/21～6/8の3週間、教育実習生としてお世話になりました。始まるまでは不安でいっぱいだった実習も、実習が終わりに近づくと「もっと実習をしたい」と思うようになってくると、私にとってこの3週間は学ぶことも多く、楽しい実習でした。1週間を過ぎたころには担当学級の2年4組の生徒とも親しく接することができ、家庭科での実習だったので生徒とふれあう機会も多く、たくさんの生徒とかわわりを持てたことが、とても嬉しかったです。

また、先生方は生徒一人一人に愛情を持って、生徒を第一に考え行動してくださいませ。その熱心な姿勢を拝見し、私も先生方のような素晴らしい教師になりたいと思いました。教育実習では、毎日たくさんの発見があり、挫折があり、笑いがありました。明秀日立で実習できたことは私の誇りです。このような充実した実習ができたのも指導教諭である仁平先生、ホームルーム担当の萬場先生をはじめ、諸先生方、生徒のみなさんのおかげです。本当にありがとうございました。

修学旅行生徒向け説明会報告



6月20日にグアム政府観光局の武内 聖乃様からグアムの楽しみ方や歴史・特徴等のわかりやすい説明をしていただきました。来年2月19日～22日(3泊4日)に行きますので、これから忙しくなります。楽しい又、有意義な修学旅行にしましょう。

東日本大震災 復興支援プロジェクト報告



講師にNHKのキャスターやTV番組の司会・ナレーションを務め大学でも教鞭をとられる平野啓子先生をお招きし「語りには心の絵画」という演題の講演会を開催しました。大切なのは伝えたいという思い、聞き手の心の中に風景が描かれて語りとなる。困難の中でも努力を続ければ必ず道は開かれる。そうした真心こもる熱いメッセージは、被災地への励ましでもありました。「蜘蛛の糸」の語り、「山月記」の朗読、参加者全員での群読などもあり、会場が一つになって楽しみました。